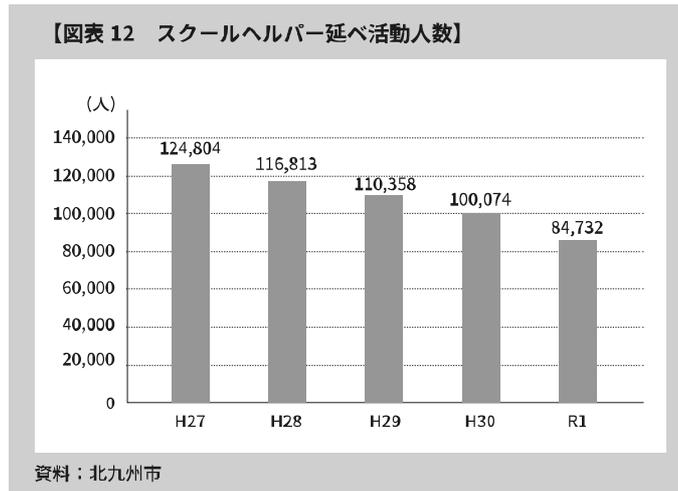


時間は8時間以上」を削除)などの改善を行った結果、学級委員長へのアンケートでは「改善できた」という回答が多くありました。

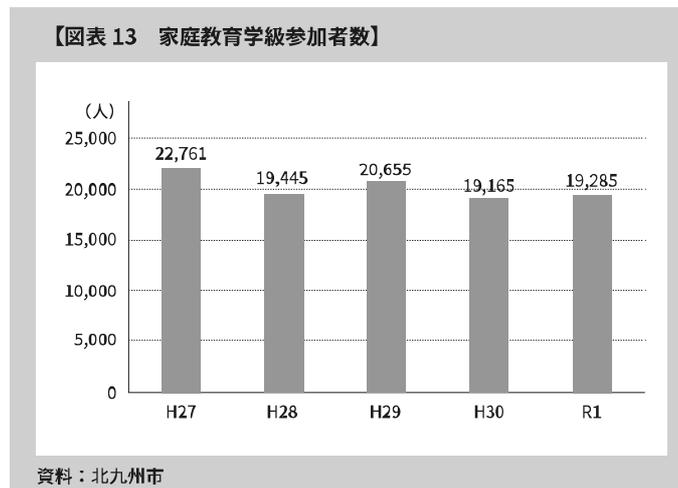
学校・家庭・地域の連携促進として、地域の協力のもと学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を全中学校区に設置するとともに、安全対策・教育支援・ブックヘルパーなどのスクールヘルパー活動が活発に行われ、多くの市民が学校の教育活動をサポートしました。(図表 12)



#### ◆現状と今後の課題

子どもや家庭を取り巻く環境が複雑化し、家庭教育学級の参加者数は減少傾向にあるとともに、家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向にあるため、関心のない保護者に対する情報提供や家庭教育学級の実施方法の改善、参加するきっかけづくりが求められています。(図表 13)

家庭教育学級の支援方法については、見直し効果を引き続き検証していくことが求められます。



学校支援地域本部事業・スクールヘルパー事業、経済界との連携による学校支援事業など、地域が学校を支援する仕組みや体制構築が図られており、今後はさらに、地域との連携・協働を進める取り組みを検討することが求められます。

## 8. 生涯学習推進計画（平成28年度～令和2年度）の総括

各種統計からみた本市の状況や社会的背景、生涯学習に関する市民意識の現状、本市における生涯学習の取り組み状況をもとにした生涯学習推進計画（平成28年度～令和2年度）の検証から、以下の課題が明らかになりました。

### （1）様々な学習機会の提供と参加のきっかけづくりが必要

本市における「生涯学習意識調査」の結果では、生涯学習に関する情報を「得ていない人」の割合は約4割となっています。また、この1年間に学習活動を「していない人」は3割となっており、その理由として、「学習活動を始めるきっかけがない」が3割を超えています。このことを踏まえると、生涯学習を推進していくには、様々な学習機会の提供に加え、参加のきっかけづくりに取り組むことが必要です。

また、いつでも・どこでも学べる環境の重要性が令和2年の国内における新型コロナウイルス感染症拡大で浮き彫りとなりました。そのため、オンラインの活用などによる学習機会の提供が求められます。

#### 【具体的な課題】

##### ○年代に応じた情報提供への対応

情報通信技術は目まぐるしく進化しており、日常生活にも大きな影響をもたらしています。

また、本市のインターネット利用率は、年代別では、70歳以上の世代を除いて全ての世代が増加している状況です。

この状況を踏まえ、生涯学習においても、インターネットを活用した「学び」と「活動」の場の情報提供が必要であるとともに、インターネットを利用していない世代にも情報が得られるよう年代に応じた情報提供が必要です。

##### ○人生100年時代を見据えた学習機会

人生100年時代を見据えたライフサイクルの中では、それぞれのライフステージに応じた知識や技能を身に付けることが大事です。そのためには、生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを獲得できるよう、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境」をつくる必要があります。

##### ○社会の中で孤立しがちな人々への学習機会

年齢・性別・障害の有無・国籍・所得等にかかわらず、さらに、孤立しがちな人や生きづらさを抱えた人も含め、全ての人が共に認め合うことができる学習機会が必要です。

##### ○多様な主体が連携・協働した学習機会の提供

より多くの市民が生涯学習に参加するには、市民のニーズを汲み取り、様々な学習を

企画する必要があります。そのためには、行政だけではなく、社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア団体、企業などの多様な主体が連携・協働し、学習機会の提供を行うことが必要です。

#### ○学んだ成果を活動に活かす仕組み

本市における「生涯学習意識調査」の結果から、学んだ成果を活かした地域活動や社会貢献の意欲は、「すでに活かしている」の割合が約4割、次いで「機会があれば活かしたい」との回答が約3割です。

この「機会があれば活かしたい」約3割の人を地域活動等につなげることで、地域を支えてくれる人材を増やすこととなります。そのため、学んだ成果を活動に活かす仕組みが必要です。

### (2) 課題を解決できる人材・地域を支える人材の発掘・育成が必要

個人や社会が抱える問題が多様化・複雑化する中で、市民には自らの課題を自らの力で解決できる力や、主体的に地域が直面する様々な課題の解決を担うことのできる力が求められています。様々な学びや活動を通して課題解決力を育み、地域を支え活躍できるような人材を発掘し育成することが必要です。

また、この人材の力を活用し、地域が直面する様々な課題の解決のための活動につなげる人材の発掘・育成が必要です。

#### 【具体的な課題】

##### ○地域活動をリードする人材の発掘・育成

地域には様々な得意分野を持った多様な人材が存在しています。それらの人々を発掘し、周りの人々が支え、誰かに強制されるのではなく、緩やかにつながり、協力し合いながら活動していくことで、地域が活性化されます。このような活動をサポートしながら柔軟に連携させ、地域をまとめていくリーダーの発掘・育成が必要です。

##### ○学びと活動をつなぐ人材の発掘・育成

本市における「生涯学習意識調査」の結果から、学んだ成果を地域活動等に活かすために必要なことは「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」と回答した割合が最も高くなっています。

学んだ人と地域の人をマッチングするには、それぞれをコーディネートする人材の発掘・育成が必要です。

### (3) 地域におけるあらゆる世代や関係機関によるつながりづくりが必要

地域のコミュニティ意識の希薄化が指摘されている中で、高齢者やひとり親家庭等が地域から孤立することのないよう、子どもから高齢者まで多世代による交流や、人と人や関係機関のつながりづくりが求められています。

また、核家族化や共働き世帯の増加、子どもや家庭を取り巻く環境が変化する中、次世

代を担う子どもたちが安心して育つ環境をつくるため、家庭・地域・学校の連携が必要です。

**【具体的な課題】**

○人と人とのつながりによる仲間づくり

地域コミュニティにおける住民同士のつながりや結びつきの希薄化は、地域での目配りや見守りが手薄になることによる治安悪化や住民の孤立をもたらすとともに、地域の防災力の低下にもつながります。

市民がともに学んだり、学んだ成果を活用し、活動したりすることで、生涯学習を通じて、人と人がつながり、絆を育むことが必要です。

○シビックプライドの醸成

高齢化の進展や共働き世帯の増加等による自治会の役員のなり手が不足し自治会加入率の低下している中、子どもの頃から、地域の歴史、文化、地域の方々とのつながりを感じる機会をつくることで、将来は、自分が地域づくりの担い手として貢献したいという、地域に誇りや愛着を持てるような機会をつくる必要があります。

○家庭・地域・学校の連携

地域とのつながりの希薄化により、保護者が身近な人から子育てを学んだり助け合ったりする機会の減少など、子育てや家庭教育を支える環境が変化しています。このため、多様化する家庭環境に対し、地域全体で家庭教育を支えることが求められます。また、家庭や地域と学校との連携・協働を進めることで、家庭・地域の教育力を向上させることが必要です。

○子どもが成長していく上でのつながりづくり

地域と子どもに関する環境の変化では、市内の子ども会の加入者数と加入率が低下しています。子ども会をはじめとする青少年育成団体においては、子ども同士のみならず、多様な年齢、多様な立場の人との関わりを通し、コミュニケーションを積み重ねて得られる人間関係、信頼関係を築いていくといったこれからの生きる子どもにとって大切な経験が得られます。今後は、地域住民や地域の多様な機関・団体等が連携した世代間交流や体験活動を促進する必要があります。

## 第3章 生涯学習のこれからの方向

### 1. めざす本市の生涯学習社会と目標

本市の基本構想・基本計画（「元気発進！北九州」プラン）では、「人づくり」をまちづくりの基本方針の第一に掲げ、その具体的な取り組みとして、生涯学習を通して、多様な人材育成と住民主体のまちづくりを進めることとしています。

これを受け、平成23年度から5カ年を計画期間とする「北九州市生涯学習推進計画」を策定しました。策定以降、市民を取り巻く様々な社会環境の変化を受けて、平成28年度から新たに「市民が学び、つどい、まちは輝く。地域から学びの環を広げよう」を計画の目標に定め、5年間、生涯学習の総合的・体系的な推進を図ってきました。

市民の学習活動は、新しい可能性を見つけ、新たな自己を発見するという喜びを与えるものです。市民一人一人が、生涯にわたって、学び、活動することの楽しさや喜びを感じ、これを仲間と共有することは、家庭や地域を生き生きと活気あふれるものにし、社会の活力を維持・増進するものです。

一方で、人口減少や少子高齢化をはじめとする多様な課題の顕在化や、急速な社会環境の変化を受け、今後、地域社会においては、住民主体でこれらの課題や変化に対応することが求められています。また、地域固有の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことが期待されています。

こうした状況の中、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える仕組みをつくるため、市民一人一人の生涯にわたる学びを支援する必要があります。

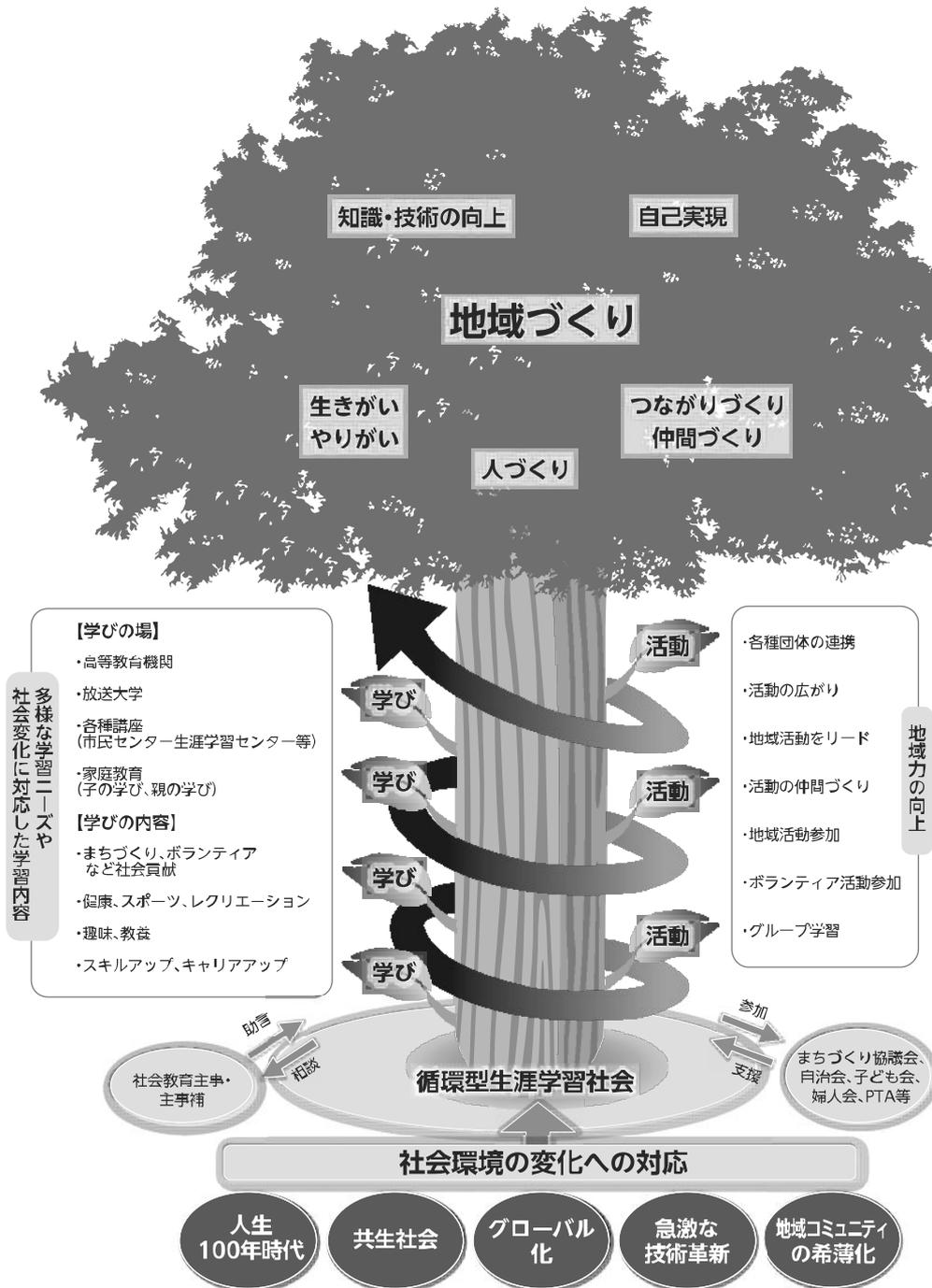
行政が行う「生涯学習の推進」とは、「多様なニーズに対応して、市民が生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができるよう、またその成果を活かすことができるよう支援すること」です。市民の生涯学習を推進し、個人のよりよい生きがいがづくりや生活づくり、また、暮らしやすい地域社会づくりにつなげていくため、関係機関と連携した各種事業の実施や情報の提供はもとより、「学び」と「活動」の機会の充実、市民が学んだ成果を活動に活かすことで新たな課題を発見し、その課題を解決するために更に学ぼうという学びと活動の循環につながる仕組みを構築します。

このような状況を踏まえ、本市のこれからの生涯学習社会の姿を描いたうえで、本市のめざす計画の目標を次のとおり定めました。

### (1) めざす生涯学習社会の姿

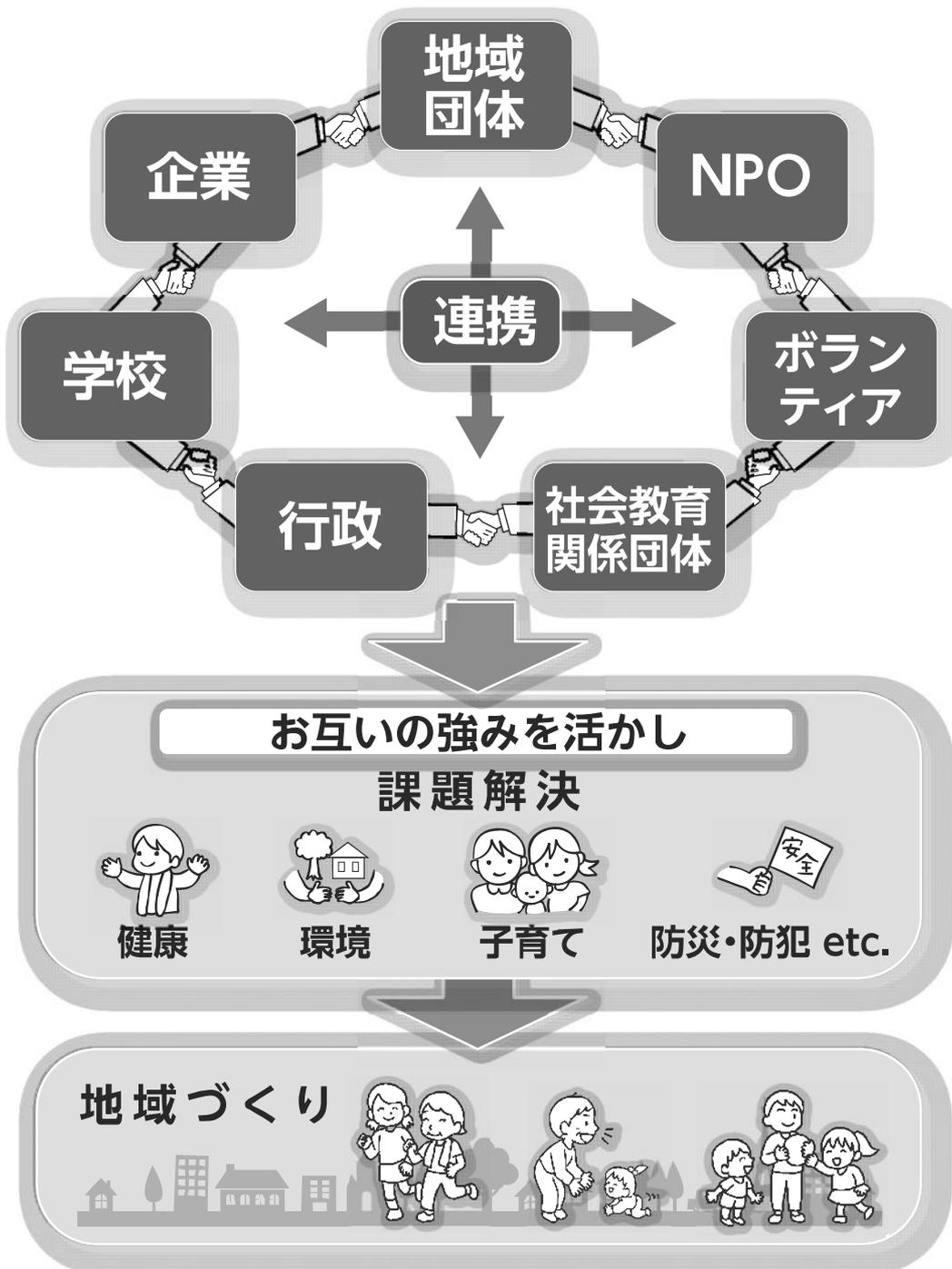
- 市民一人一人が、生涯にわたるあらゆる段階や場面において、自分に適した手段・方法を選択し主体的に学習に取り組み、学んだ成果を行動に活かす人が地域社会に多く存在する社会  
(循環型生涯学習社会)

【イメージ 循環型生涯学習社会】



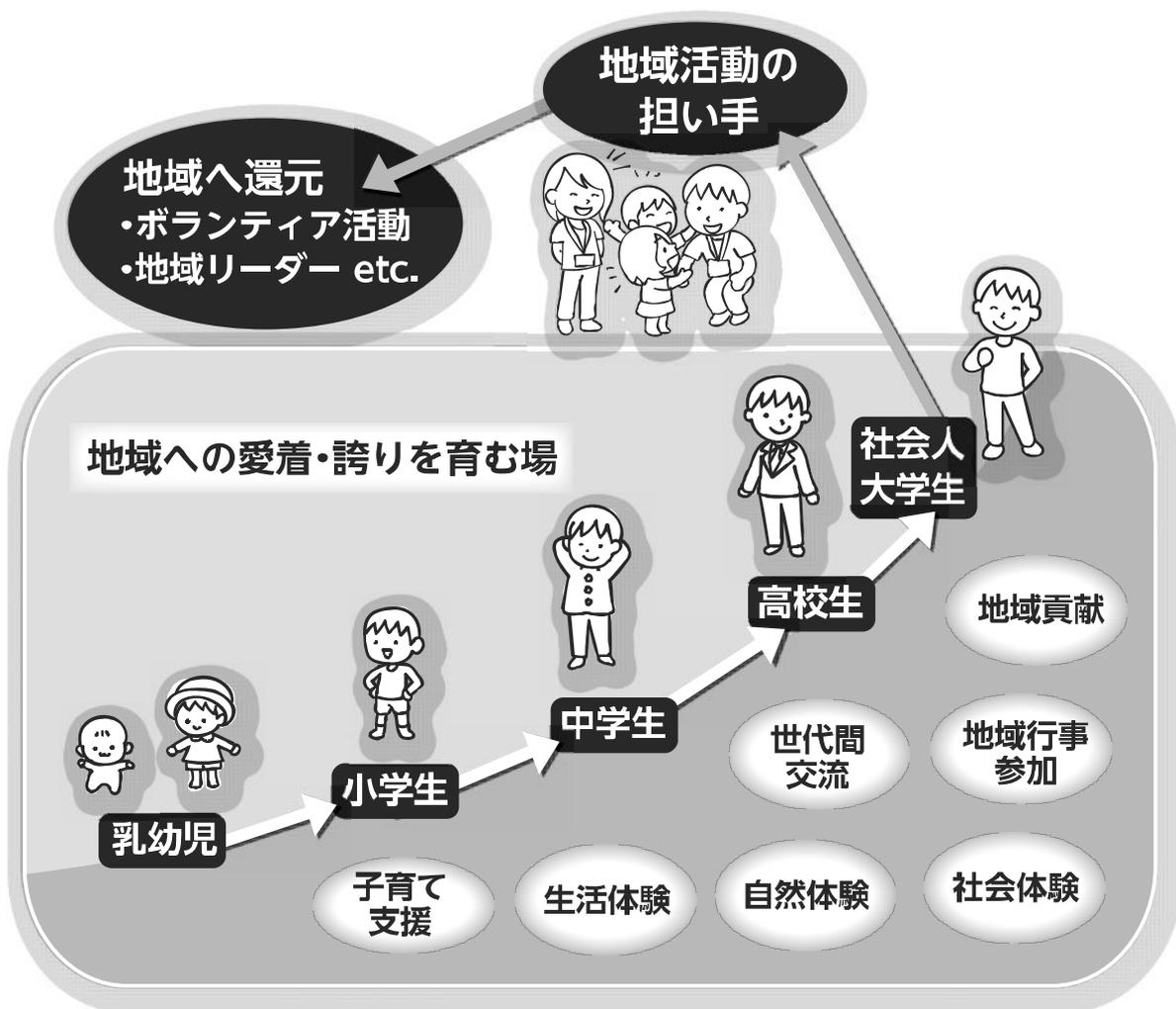
- 地域が抱えている多様かつ複合的な課題により効果的に対応するため、行政だけではなく自治会、まちづくり協議会等の地域団体、社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア、企業などの地域社会のさまざまな組織が、それぞれの強みを活かしながら共に支え合い高め合うネットワークが形成され、地域の活力が高まった社会（ネットワーク型生涯学習社会）

【イメージ ネットワーク型生涯学習社会】



- 地域の様々な市民や団体が継続的に子どもの健やかな成長・発達に関わり、子どもと大人たち全てが共に学び合い、支え合い、高め合う。また、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを進め、これからの時代に必要な力や、生まれ育った地域や本市への愛着や誇りを子どもたちに育む。そうした環境の中で子どもたちが将来の地域の担い手となる社会  
(次世代育成型生涯学習社会)

【イメージ 次世代育成型生涯学習社会】



## (2) 計画の目標

市民が学び、つどい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

## 2. 基本方針と施策の視点

この目標を実現するため、「第3期教育振興基本計画（平成30年6月）」や「中央教育審議会答申（平成30年12月）」等を踏まえた新たな視点から4つの基本方針を定めます。また、生涯学習施策の実施にあたっては、次の8つの視点を基に、今後展開していく施策を3つの柱に沿って推進することとします。

### (1) 基本方針

- 人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習社会づくり
- 「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会づくり
- 多様な主体のネットワークによる生涯学習社会づくり
- 子どもの成長への関わりを通して「家庭」や「地域」の力が高まる生涯学習社会づくり

### (2) 施策の視点

- きっかけづくり  
より多くの人々が学びの場と活動の場に一步踏み出すきっかけをつくります。
- 人づくり  
地域課題の解決に向けた学習活動の成果を地域活動、ボランティア活動等に活かす人材を育成します。
- つながりづくり  
学びや活動に参加することで、共に学ぶ・活動する仲間が生まれます。特に、地域では住民同士の仲間意識や絆を強めていきます。
- 地域づくり  
学びを通して地域課題に対する住民の関心を高めるとともに、住民同士の結びつきを強め、「住民主体のまちづくり」を推進します。
- ネットワークづくり  
地域団体や社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア、企業などの多様な主体が課題に応じて、連携・協働し、お互いの強みを活かし、より効果的に生涯学習を推進します。
- 多様性への対応  
市民一人一人の個性や多様な生き方、主体性を大切にしながら、全ての人々が学習できる機会や環境を提供します。